

お兄ちゃんが私に食べ物してくれるなんて、意外だね。

ごん
ごん

え？いつもお弁当を作ってくれてありがとうって？
そんなの、当然妹の仕事だよ。

一々そんなことに感謝しなくてもいいんだから。



私にとって、この世で一番大切なのはお兄ちゃんだから。

お兄ちゃんさえずっと私のそばにいてくれるなら、
そんなお弁当くらい一生作ってあげるよ。

幸い最近はお兄ちゃんのおそばにまとわりつく
面倒な女の子もいないみたいだし。

私の愛がついに通じたのかな？



え？他の女の子たちに何をしたのかって？

それはもちろん「丁寧」をお願いしたただだよ。

みんな意外と素直で、私のお願いをちゃんと聞いてくれたんだよ？

何人かは私に謝ってくれたし。

たぶん、もうお兄ちゃんを邪魔することはないと思う。

心配しなくてもいいよ。



お兄ちゃんはこれからずっと私のそばに
いてくれればいいの。

他のことは何も気にしないでいいんだから。

それより、これ美味しいからもう一杯作ってくれない？





10分後

なんだかさつきから頭がぼーっとして、
体に力が入らない感じがする。

最近外に出ることが多すぎて、体が疲れているのかな？

うと
うと
せつかくお兄ちゃんが作ってくれた飲み物、
まだ全部飲みきってないのに。



早く飲んで、お兄ちゃんの夕ご飯を作ってあげなさい。

でもそれよりも、XXの監禁場所に行ってもう一度チェックした方がいいかな？

すー

なんだか…思考が…続かない…







やっと眠ったか。

象でも数滴で眠る量を混ぜたのに、それを二杯も飲むなんて。

一体、俺の妹の体はどうなっているんだ。

スー……

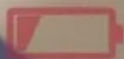
スー……

スー……

まだカップを手放してないし……

始めても大丈夫だよな？





REC

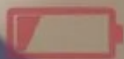
くがー

これでカメラの設置完了。

カメラを設置している間に完全に
薬が効いたみたいだ。

渚の表情も緩んで口も開いていて、
よだれも流れているな。

がー



おい、渚。お前のせいで俺の生活がどれだけ荒れているか分かっているのか？

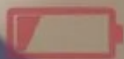
ガッ！

最初は単に妹のわがままだと思って可愛がっていたけど、最近はずますます私のプライベートにも干渉してくるし。

最近ではXXに酷いことをしたよな？

もしかしてXXが行方不明になったのもお前の仕業か？

ガッ！



ねえ、口があるなら何か言ってみろよ。

がー

まあ、今は夢の中を旅している最中だろうから返事はできないだろうけど。

とにかく、これまでお前のせいで溜まってきた欲望をこれからお前の体で解消するからな。

まずはその大きな胸を使ってみようか。

がー



えこれは何だ？ ブラパッドか？

こいつ、胸のサイズは嘘だったのか。
なんだかとても損した気分だ。

くー……

かー……

これじゃあ最初の計画が狂ってしまう。

最低限の胸の谷間もできない貧乳じゃないか。くそっ。



渚 お前、小さい胸がコンプレックスだったのか？

わざわざこんなものまで胸に入れて
サイズをごまかすなんて。

ト……

ガ……

おかげで、このお兄ちゃんはお前の胸で
パイズリができなくなったんだぞ。

どう責任を取るつもりだ、この状況を。





ちっ、やっぱり小さいな。
でも、形自体はかなり綺麗な方だな。

シミもないみたいだし。

か

トヘー...

もう少し成長すれば胸も一緒に大きくなるかな？

誰かが胸の大きさは性格に従うと言っていたが、
意外とその通りかもしれないな。



かー……っ？

やっと一つの手でつかめるくらい大きさだな。

本当に小さいから弾力が強くて触っている感じもない。

まあ、乳首の部分は柔らかいから持って遊ぶ分にはいいかもしれないけど。

ヒク……♡



ハハハ。やっぱり弱点だったか。

あんまり強くつかまえていないのにビクビクしているし、
えり頸もブルブル震えている。

ガーーーー

ガッ...

呼吸音も不規則になったし。

なんだ、本当に乳首が弱点なのか、僕の妹は。

ビクン!

ビクン! ビクン! ビクン! 



な、なまぐらゝ起きて。

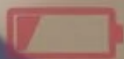
今まで秘密にしていた胸のパッドがばれてしまったんだって。

く……

く……

大変なことじゃない？

今すぐ起きなると、もっとひどいことかもしれないって。



完全に眠っているのに何かピクツとする反応があるとは、
もっと面白いね。

がー……

意識がない体を持って遊ぶのはこんなに
面白いことだったんだ。

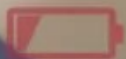
これからも機会があればまたやってみないかね。

がー……

しこ

しこ

ググググ



ふう…予定していたファイズリーは違っけど、
それなりに楽しかったな。

意外にも、渚の乳首が弱点だということも知れて良かった。

がく

く…

何よりも、その胸が全部偽物だったということが
判明したなら、それは収穫だ。

ドクドク

ヒュルル
ドクドク



その強力な薬を2杯も飲んだから、しばらくは目が覚めないうらう。

か〜…

か〜…

目も完全に回っていて、ピントが合わない。
なんだか奇妙な姿だ。

この奴、意識があれば絶対にできない表情をしているよ。

ドロォ

意外にも意識のない人の服を脱がすのは難しいですね。

それはともかく、なぜか、この奴、
トイレ後ちゃんと拭かないのかな。

下着におしっこがついているようです。

REC

REC

しかし、女は女だ。私の顔までオスの匂いが鼻をつく。

先ほどおっぱいでやったけど、また勃起してきた。

今度は妹の大事なところを開いてみるか。

く……

く……！

REC

うーん。これは…なんだろう…意外にもきれいな感じだな。

ぷよぷよした体つきもぴったりだし、肛門もきちんと閉じている。

フ…

く…

下の方まで毛の痕跡はないな。

うん、やっぱり妹は女だ。

REC

へえ...？急に肛門が広がったけど？

ずっとこの姿勢をしているから疲れたのかな？
それともこれも薬の効果なのかな？

スー...

スー！...

おかげで穴の中までよく見えるな。

幸い...ウシコは見えないね。

ガッパ♡

REC

内臓もきれいだな。処女膜は…見えないみたいだ。

ひょっとしてこの奴が他の男としたことがあるなんてことはないよな、
きつと俺を相手にオナニーをされていて、
処女膜を失ったんだろう。

十分に想像できる出来事だね。

くぱぁ♡

REC

内臓の状態は…まあまあ良さそうだ。

硬くなったり濡れたりする反応もそこそこだが、物足りないな。

ガー！

ガー！

バ！

ちゅ

ちゅ

指を入れてみると、確かに分かるよ。

この奴は処女だけど、処女じゃないね。

REC

うーん、幸せだと言えるのか不幸だと言えるのか。
せつかなら私が処女を奪ってあげるつもりだったのに。

がー

がー

いや待って、それじゃあこのやつが喜んでるんじゃないか？

REC

おお…中はこんな感じか。

白い粘液が広がっているけど、最後の方に見えるのは子宮かな？
普通は本人も一生直接見ることはない場所だろう。

ガー…

ムガ〜

マリッ

なごさ、お前に一番大事な部分が見えるのは嬉しいか？

嬉しいって？それなら良かった。ははは。

REC

あれ、なんだ、この奴。目が完全に逆さまになってる。

かー
んが、

がー

何かおかしいのか？もしかして目が覚めようとしているのか？

ガクン

ガクン

上

渚のパンティで口をふさぎながら、よかった、きれいんは止まった。

何だったんだ、さっきは？

もしかして薬の副作用か？まあ、どうでもいいけどね。

REC

REC

意識のない状態でも女性な絶頂できるか？

ト...

ス...

くちゅん

ス...

くちゅん

とりあえず、古典的な方法でしているが...

中の状態が次第に濡れているのが確認できるが...



REC

おおお？なんだこれ、突然締まってきたけど。

本当に絶頂か？

ソクソクソクソク

んん

んん

きゃん♡

きゃん♡

バグバグ



REC

あつ、

しまった！

フット

くっ！

くっ！

REC

ちよつと、こんなこと予定になかったよ。

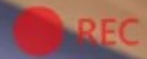
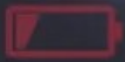
こんなことになると思っただらタオルでも下に敷いておくべきだったな。

チヨロロロ

♡

これからはソファで俺の尿の匂いがずっとするだろうな。

まあ、大部分は俺自身が体で耐えているけど。

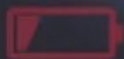


こんな状態でもまだちゃんと眠ってるなんて。
もっと早くこの方法を試せばよかった。

今この方法を知れてよかった。

スー...

スー...



REC

はぁ♡

うーん…でも、徐々にアナルの力が戻ってくるのを見ると、
長く遊んでいると危険かもしれない。

早く本番を始めなきゃ。

スー…

スー…

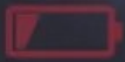
REC

ふう…やっぱり処女でありながら処女でないのは幸運だったな。
さっきの絶頂があったからか、動きも楽し。

触るたびにアナルが動くのはちょっと可愛いな。

ん…

く…



REC

トロオ...♡

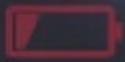
やっぱり精液が逆流してるな。

気にしなくてもいいだろう。

これからもチャンスがあれば可愛がってやるから。

く...く...

く...く...



REC

今日から立場が逆転だよ。なぎさ。

もちろん、君の好きな特製ドリンクは
いつでも作ってやるから。

代償はその体で払えよ。

くー……

スー……

スー……